

トドマツ苗の地際のこぶ症状

問 トドマツ2年生苗を床替のために掘り取ったところ、地際がこぶのようにふくらんでい
る苗木が多いのに気づきました。被害の原因と対策をお知らせください。

(栗山町 S生)

答 最近、道内各地のトドマツ苗畑で、トリフルラリンを成分とする除草剤による薬害が発
生しています。ご相談の被害もその症状からみて、この種の除草剤による薬害と考えられます。

トリフルラリン除草剤による薬害の症状は、苗木の地際が紡錘形にふくらんでこぶのよう
になることです(写真)。被害部の表面はざらざらに荒れて亀裂が入ることがあり、時に根腐れ
を伴います。トリフルラリン除草剤によるこのような薬害は、本道では、今のところトドマ
ツだけに発生していますが、本州では、アカマツで同様の被害例があります。

被害は、薬液の濃度が高いほど、また散布量が多いほど激しくなります。また、適正な濃度、
散布量であっても、まきむらによって薬害が発生することも考えられるので、今後トリフルラ
リン除草剤の使用は避けた方が良いでしょう。

被害苗の取扱いですが、症状の軽い苗木は幹の肥大生長につれて地際のふくらみも目立たな
くなり、枯死することもないので床替しても大丈夫でしょう。一方、こぶが大きく、亀裂や根
腐れが著しい苗木は床替せずに廃棄した方が無難でしょう。

ところで、トリフルラリン除草剤を使用していない苗畑で、トドマツ苗の地際にこぶが生じ
た例があり、トリフルラリン除草剤以外の薬剤によってもこぶ症状が発生することがあるよう
です。かつて本道で、BHCの散布によってトドマツ、カラマツ苗木の地際にこぶが生じ、問
題になったことがあります。除草剤に限らず、苗畑での薬剤使用に当っては、散布基準を守る
とともに、まきむらのないよう慎重に行いたいものです。

(樹病科 秋本正信)

